

令和6年度 事業計画

事業概要

【期 間】

令和6年4月1日から令和7年3月31日

【概 要】

当財団は公益法人として、公益法人制度の趣旨に鑑み、公益性の高い法人運営を行い、新潟における海洋・河川文化の普及啓発の充実に努めていく。

普及啓発事業においては、田んぼ体験や観察会の開催など野外における体験学習を実施するほか、昨年度に引き続き、「ラムサール条約湿地自治体認証」※の関連事業を実施し、湿地への関心を高める。合わせて国際湿地都市新潟市の魅力を発信する。また、学校等の団体を対象とした校外学習や教育機関への講師派遣など、教育施設との連携を継続する。

調査研究・保護継承事業においては、野生水族に関する生息調査等を行い、地域の自然史に関する知見の蓄積により一層努める。

水生生物の展示及び飼育事業（水族館事業）においては、新潟市水族館の指定管理者として令和6年度から新たに5年間指定された。常に社会的課題やニーズを踏まえて中長期的な目標を掲げ、その目標達成のため年度毎の目標を設定して事業に取り組む。来館者の安心・安全を第一に考え、これまで積み上げていた知識・技術・経験、また全国的なネットワークを十分に活かし、適正な施設の管理運営を行っていく。今後も新潟市水族館の設置目的と「新潟で一番愛される施設」という私たちのビジョンの達成を目指し、一層の来館者の満足度向上に努める。

※湿地の保全・再生、管理への地域関係者の参加、普及啓発、環境教育等の推進に関する国際基準に該当する自治体に対してラムサール条約に基づき認証を行うもの。鹿児島県出水市とともに、日本の自治体として令和4年11月に初めて認証を受けた

【事業名】

公益目的事業

- 1 海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業
- 2 海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業

収益事業

- 1 施設管理に付帯する事業

公益目的事業

- 1 海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業

【事業目的】

新潟における海洋・河川文化の現状や変遷を調査研究及び情報発信することにより、海洋・河川文化及び海洋・河川等と人との関わりの大切さを後世に継承し、併せて地域社会の持続的発展の担い手を育む。

【主な事業内容】

(1) 海洋・河川文化の普及啓発

区 分	名 称	プログラム等	内 容
体験学習	ラムサール条約湿地 自治体認証関連事業※ 田んぼ体験	田植え	稲作体験（田植え・稲刈り・脱穀）と、収穫したわらを利用したわら細工体験を通して、新潟での稲作の文化、田んぼの環境や生息生物と人との関係を学ぶ
		稲刈り	
		脱穀	
		わら細工	
	野外観察会	貝の標本づくり	地先海岸で貝を採集し、採集した貝を用いて種の同定方法と標本作製の手順を学び実践する
スナガニ 野外観察会		砂浜でスナガニの観察や採集を行う。採集したカニの雌雄を見分けたり、巣穴構造を知るために石膏で型を取ったりする	
ラムサール条約湿地 自治体認証関連事業 潟のいきもの 観察会		潟と周辺の水路で水生生物を採集・観察する。生物だけでなく、潟の環境や生態系などについても観察する	
海辺の清掃 プロジェクト		地先海岸を散策しながら打ち上げられたゴミなどの漂着物を収集・観察し、海の問題を考える	
講演会	マリンピアカレッジ	ボトルアクアリウム作成	自身の体験談を交えた講演会を実施していただき、ボトルアクアリウムの維持管理や生態系の仕組みを理解する 【講師：有限会社エイチツー代表 早坂誠氏】
		ヒトデ	生体の観察や実験などを交え、ヒトデの魅力的な生態や形態について学ぶ 【講師：国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所 木暮陽一氏】
		イルカの眼から見える世界	鯨類の行動や認知機能解明に取り組まれている研究者に、イルカの視覚による認知能力についての研究最前線をわかりやすく講演していただく 【講師：東海大学海洋学部 教授 村山司氏】
	特別講演会	水族館職員が語る 深海底の調査と 深海生物	研究者としても著名な水族館職員のお二人を招き、深海底の調査方法や機材、深海生物の採集方法などについての講演をしていただく 【講師：ふくしま海洋科学館 山内信弥氏 東海大学海洋科学博物館 山田一幸氏】

各種団体との連携	社会教育連携	ラムサール条約湿地 自治体認証記念事業 舟にのって水草刈り と泥上げ体験	にいがたフィールドの砂丘湖で舟に乗っての草刈り、 ため池での泥上げ、上げた泥を田んぼに入れる体験を 行う。また、合わせて新潟市歴史博物館の学芸員から 水田と潟環境の歴史的な関係を講義により紹介して いただく
	学校教育連携	総合学習の受入	水生生物や環境問題などについての質問やキャリア 教育など、学校のニーズに合わせ写真や資料を用いて 講義する
		実習生の受入	専門学校生、大学生を対象に飼育実習、獣医実習、博 物館実習を行い、飼育技術や展示技術、教育方法など の現場実習を行う
		教育現場への 講師派遣	アウトリーチ事業の一環として、野外での観察などの 指導、生物や仕事についての講義・指導を行う
		小児病棟への ライブ配信	新潟大学医歯学総合病院や県立がんセンターの小児 病棟に入院中の病児へ日本海大水槽やペンギン、イル カショーなどのライブ配信を行う
	出張展示	他団体主催 イベントなど	館外へ出向いて、水生生物の生体展示、写真を用いた クイズ大会・ワークショップなど楽しく学ぶ機会を提 供する
行政機関連携	行政機関との 連携イベント	省庁、自治体などと連携し、パネル展示やワークショ ップなどで水生生物や海洋河川および地域振興に関 しての情報を発信する	

※新潟市が認証を受けたことを記念する事業・・・湿地への関心を高め、新潟市の魅力や可能性を知ってもらう内容を含む

(2) 海洋・河川文化の調査研究

区分	名称	内容
研究発表	J A Z A (日本動物園 水族館協会) 関連	水族館技術者研究会、海獣技術者研究会など
	J A A (日本水族館協会) 関連	トレーニングセミナー、水族館研究会など
	その他研究会・学会	日本動物園水族館教育研究会、日本野生動物医学会、さけます等栽培対象資源対策事業など
各種会議	J A Z A 関連	生物多様性委員会、種保存会議、設備会議、事務主任者会議など
	J A A 関連	通常総会、寄鯨会議など
	その他会議	新潟県博物館協議会、大都市動物園水族館事務主管者会議、新潟市里潟研究ネットワーク会議など
研究	水産庁委託	アカムツの親魚養成技術の開発

共同研究	J A Z A	ユーラシアカワウソの泌尿器疾患にかかる研究・栄養評価
	岐阜大学	カマイルカの繁殖生理の季節性や生殖腺活動の状況などの調査
	新潟大学	イルカから水中で無侵襲的に脳波を記録する方法を確立するための研究
		【新規】クモヒトデ類の生態、成長、生活史に関する研究
	日本獣医生命科学大学	ハンドウイルカとカマイルカの代謝モニタリング調査
	東京海洋・常盤・三重大学	カマイルカの鳴音に関する研究
	日本大学	ペンギン類の鳥マラリア感染に関する研究
	国立研究開発法人 水産研究・教育機構	【新規】エチゼンクラゲの飼育条件による成長速度の比較研究

(3) 海洋・河川文化の保護継承（生物種の保全を含む）

区分	名称	内容・回数
生息域内 保全	シナイモツゴ調査	県内の希少淡水魚の生息調査・2回
	ホトケドジョウ調査	県内の希少淡水魚の生息調査・1回
	コシノハゼ調査	県内の希少淡水魚の生息調査・5回
	キタドジョウ調査	県内の希少淡水魚の生息調査・2回
	ハクバサンショウウオ調査	県内の両生類の生息調査・2回
	タダミハコネ サンショウウオ調査	県内の両生類の生息調査・1回
連携調査	深海生物調査	ROV(水中探査機)による佐渡海峡の調査・1回(ふくしま海洋科学館との共同)
	福島潟いきものしらべ 水生生物観察会	NPO ねっとわーく福島潟の自然観察会への講師派遣・1回
	親子魚探検 (五泉・新発田)	生物多様性保全ネットワーク新潟主催の自然観察会への講師派遣 ・2回
	水あぶり(関川)	タランベクラブの自然観察会への講師派遣・1回

2 海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業（水族館の管理運営）

【事業目的】

新潟の自然環境とそこに生息する水生生物の展示を基礎としながら、多種多様な環境の生物を展示し、各種体験型プログラムを実施することで、市民が海洋・河川や水生生物などに親しむ機会の充実などを図り、海洋・河川に関心を持つきっかけとなる機会を創出する。

【主な事業内容】

(1) 水生生物に関する知識の普及振興

名称	プログラム	内容
企画展示	ふるさと新潟の魚 ～県の推進ブランド ・市の銘産品～	県や市がブランド化を推進する魚の生体展示を行い、生態や人工授精についてパネルで解説する。また、食べ方や旬の時期なども紹介する
	水中探査機で見た！ 日本海の海底と生物	水中探査機(ROV)による調査について、探査手段や深海の特異性、また生物がその環境にどのように適応してきたかなどを実際の記録映像や生体展示で解説する
	ラムサール条約湿地 自治体認証関連事業 新潟の潟と水生生物	新潟市が誇る水辺環境である里潟の価値と魅力を伝え、「潟」とそこに生息する水生生物を紹介する
	フォトコンテスト	新潟市水族館で撮影した写真を Web 上で公募し、年 4 回コンテストを実施する。受賞作品も Web 上で公開する
いきもの教室	水族館の水	水族館の水がどこから来ているのかをツアー形式で見学し、海水と淡水の違いや水の汚れなど実験を行いながら学ぶ
	水族館の獣医の仕事	実際の検査器具で魚の検査や処置（麻酔）の実演を見ながら、水族館の獣医師の仕事を学ぶ
	イルカを調べてみよう	イルカの飼育現場の見学やイルカの観察を行い、体のつくりや生態について学ぶ
大人向け教室	写真教室	水族館での楽しみの幅を広げるため、職員のレクチャーにより、水槽内の生物を上手く撮影するポイントを学ぶ
ガイド ツアー	ナイトツアー	閉館後の夜の水族館で、生き物の昼と夜の活動の違いや外観の変化等をツアー形式の解説で学び、水生生物の生態や自然環境への関心を深める
	イルカバックヤード ミニガイド	イルカ飼育設備のバックヤードやステージを解説を聞きながら見学し、イルカの生態について学ぶ
参加型イベント	ラムサール条約湿地 自治体認証関連事業 にいがたフィールドガイド	にいがたフィールドを歩きながら自然環境と希少生物の域外保全について学ぶ。季節の変化を感じられるように 4 月～10 月（8 月を除く）に毎月開催する
	企画展示ガイドツアー	企画展示「水中探査機で見た！日本海の海底と生物」の会場でツアー形式の解説を行う
	障がい者向けプログラム	障がい者を対象に水族館の生きものを学ぶ参加型プログラムを行う
記念日イベント	ペンギンの日	世界ペンギンの日（4/25）に合わせ、通常の展示だけではわからないペンギンの生態や野生の現状について理解を深めてもらうイベントを行う

記念日イベント	カワウソの日	世界カワウソの日（5月最終水曜日）に合わせ、カワウソ類の生態や、野生の生息状況などを解説パネルで展示するとともに、ユーラシアカワウソに給餌をしながら解説を行う
---------	--------	---

(2) 水生生物の収集、飼育、展示

区分	名称	内容・回数
飼育展示	館内での飼育展示	600種20,000点を越える飼育規模を維持
常設解説	イルカショー	イルカの形態や生態、運動能力などを解説する・4～5回/日
	マリンサファリ給餌解説	トドに餌を与えながら、体のつくりや生態について解説を行う・2回/日
	ペンギン解説	ペンギンの分類や生態、生息地の環境について解説を行う・2回/日
	日本海大水槽解説	大水槽の展示生物や海洋環境、水族館のしくみを解説する・1～2回/日
	磯のいきもの解説	磯のいきものについて実際に触れてもらいながら解説を行う・1回/日
	アクアラボ体験プログラム	日替わりのテーマで、観察、実験、解説を行う・1回/日
生物収集	能生乗船	ベニズワイ漁乗船採集（深海生物）・2回
	佐渡乗船	エビカゴ漁乗船採集（深海生物）、定置網乗船採集（シイラなど）・5回
	寺泊乗船	刺し網漁乗船採集（アカムツなど）、定置網乗船採集（アオリイカなど）・5回
	柏崎アマモ採集	アマモ場生物採集・12回
	間瀬乗船	乗船釣り採集（シキシマハナダイ、アカムツなど）・5回
		底曳き漁乗船採集（アラなど）・3回
	和歌山県（串本）	スマ・ハガツオなど輸送・2回
	神奈川県（横須賀）	マイワシ輸送・3回
新潟県内淡水生物採集	カジカ大卵型・アブラハヤ・タナゴ類・水生植物など・5回	
生物交換	ふくしま海洋科学館	熱帯魚、深海生物など・5回

収益事業

1 施設管理に付帯する事業

【事業目的】

施設利用者の利便性に資するため、レストラン及び売店、自動販売機等の設置を行う。

【主な事業内容】

区分	設置数・場所
レストラン	1ヶ所・本館2階
軽食売店	2ヶ所・屋外、屋上 ※季節・天候により営業中止
移動販売車	1ヶ所・アプローチ棟手前 ※季節・天候により営業中止
売店	1ヶ所・アプローチ棟
自動販売機	19ヶ所・館内、屋外各所
ロッカー	1ヶ所・アプローチ棟
記念メダル	2ヶ所・本館1階
プリントシール機	1ヶ所・水辺の小動物
カプセルトイ（コイの餌）	1ヶ所・屋外

新潟市水族館の指定管理者としての主要項目とその達成目標

1 普及啓発、調査研究及び保護

項目	達成目標
常設解説	毎日実施
企画展示	年間 250 日以上
ガイドツアー	3 企画以上、年間 20 日以上
各種調査等	公開・公表、研究機関との共有

2 生物の展示

項目	達成目標
魚類等の飼育展示	600 種 2 万点を超える水生生物の飼育・展示

3 年間入館者数など

項目	達成目標
年間入館者数	54 万人以上
年間入館料収入	4 億 6,063 万 7 千円以上
年間パスポート購入者数	1 万 4 千人以上
年間パスポート所有者リピート数	年平均 7 回以上
ホームページと SNS の更新	合わせて週 7 回以上

4 人材育成

水族館を適切に運営するために J A Z A（日本動物園水族館協会）や J A A（日本水族館協会）などの会議・研究会へ参加するほか、社内研修を職種別、階層別、全共通に分けて計画的に実施する。また、職員の自発的な学びを進めるため、財団運営に必要な資格取得を推奨・促進する。